



## 自助・互助・共助・公助 (※)

校長 田邊 雅也

### 能登半島地震

元日の16時10分、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生しました。日本列島を大きく揺らし、埼玉県でも揺れを感じるほどでした。能登半島では、約3年前から大きな地震が続いていて、令和5年5月5日のM6.5最大震度6強の地震が最大でした。しかし、今回は、M7.6で、その30~60倍のエネルギーだったようです。日本周辺で発生した地震でみても、地下深くの地震を除けば、平成23年(2011年)3月の東北地方太平洋沖地震の一連の活動以来の規模です。私の実家は、能登半島の海の近くにあり、実は、母や兄弟、親族、友人が住む能登半島では、以前から、大きな地震が発生するのでは、と心配する声がありました。

### 故郷が被災

元日のニュースに、幼少期に育った見慣れた場所が映っていました。住民は、大津波警報が響く中、液化化で隆起する道路、水が激しく逆流する水路、倒壊しそうな家屋等を目の当たりにし、パニックになりそうな気持ちを抑えながら、高台へと避難しました。母の住む地域は、電気とガスはつながり、暖をとることができましたが、断水となりました。私は、地震の翌日の1月2日に帰省する予定でしたが、新幹線が運休となり、埼玉で故郷を心配しながら、新年を過ごすこととなりました。

震災してから、水が出る被害の少ない地域に住む親族に身を寄せる者、学校の体育館で夜を過ごす者、隣町から親戚や友人にポリタンクで水を差し入れる者、揺れで故障したボイラーを自力で修繕する者など、親族や友人が、現地の様子を、SNSを通して、画像で伝えてくれました。また、多くの水道管が破裂し、今なお、多くの世帯が断水を余儀されています。徐々に、他の市町の壮絶な様子が数多く報道されるようになり、雪が降る極寒の中で、人命救助と復旧に向け、全国から自衛隊、警察、消防、災害ボランティア、業者等の皆さんが、能登半島に集結しています。寒心に堪えない状況下で、「公助」という言葉では表せ尽くせない奮闘ぶりに、頭が下がる思いです。

### 防災教育が根付く

防災教育は、究極的には、命を守ることを学ぶことです。そのためには、災害発生の理屈や、社会と地域の実態を知ること、備え方や災害発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして、最も大切なことは、実践できる力を養うことです。

1月2日には、旅客機の火災事故がありました。乗客がSNSで投稿した動画では、窓から炎や黒煙が見え、機内にも煙が立ち込める緊迫した状況でしたが、全員が無事に避難できたのでした。乗務員の皆さんの不断の努力と、幼い頃から避難訓練等で身につけた乗客の実践力の賜物ではないでしょうか。日本全国で、防災教育の「自助・互助・共助・公助」の精神が根付いていると感じています。確かに、六小の子供たちも、予告をしない避難訓練、市の防災訓練放送、保護者引き渡し訓練等で、自分の身を守り、どう行動したらよいかを「自助」できる実践力を身につけています。

### 箱根駅伝も「自助・互助・共助」

能登半島地震の翌日に開催された箱根駅伝は、青山学院大学の大会新記録での総合優勝で幕を閉じました。往路優勝の際、原晋監督は、「20年かけて、自立から自律に変わりました。学生たちは自分の気持ちで走りました。監督に言われて走るのではなく、自分たちの好きな箱根駅伝になるよう努力して走りました。」とコメントされていました。エントリーメンバーも、サポートメンバーも、チームのためにできることを、共に考え、行動していました。監督は「自律」と表現しましたが、「自助・互助・共助」の精神だとも思いました。強力なチームワークと、魂のこもった走りを生んだと感じます。能登半島で被災した実家の母も、箱根駅伝の参加校から、たくさんの感動とエネルギーをもらっていたようです。だれかの気持ちを前向きにさせることも「互助・共助」ではないでしょうか。

### 社会総がかりの教育で「自助・互助・共助・公助」も

令和5年度は、オーセンティック(本物)とウェルビーイング(幸せ)を目指す学校像として、教育改革を進めています。今月は、マルエツ朝霞店さんにおいて、5年生の書きぞめの展示を行います。学校と地域との「互助・共助」の精神を、さらに育む一助となるのではないかと期待しています。

令和6年は、元日から、心配なニュースから続きました。断続的な揺れが続いている被災地の一日も早い復興を心よりお祈りすると同時に、「自助・互助・共助・公助」の精神をも培う「社会総がかりの教育」を展開していきたい、と改めて感じています。今年もよろしくお祈りします。

※自助・互助・共助・公助

災害の被害を軽減するためには、「自助・互助・共助・公助」が不可欠であるという考え方。「自助」は一人一人が自ら取り組むこと、「互助」は家族・近所・友人と助け合うこと、「共助」は地域や身近にいる人どうしが共に取り組むこと、「公助」は国や地方公共団体などが取り組むことを指す。